

# 供給信頼度評価の課題整理について（報告） （EUEと予備率の関係整理 その1）

2026年2月16日

調整力及び需給バランス評価等に関する委員会事務局

- 第113回本委員会(2025/11/26)にて課題提起した検討事項⑤のEUEと予備率の関係の整理について、現状の供給信頼度評価に関して分析を行ったため報告する。

検討事項		現状の取扱い
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>EUEによる需給バランス評価について、<b>月を前半・後半等に細分化することで、より合理的な評価を行うことができるのではないか。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月の厳気象対応は、月前半・後半の考え方を元にした暫定対応により必要供給力を算定</li> <li>EUEツールは月単位の評価を行う仕様であり、月の細分化による評価にはツール改修が必要</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>至近3カ年平均の実績から算定し、3年周期で見直すこととしている<b>EUE算定向け計画外停止率について、2022年度～2024年度の実績による見直しが必要。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度～2021年度の実績から算定したEUE算定向け計画外停止率を適用している</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>今般の需給ひっ迫等で補修停止計画の調整が発生している状況ならびに2025年度供給計画の取りまとめに関する経済産業大臣への意見の内容を踏まえ、<b>年間計画停止可能量及び追加設備量の考え方を改めて整理する必要があるのではないか。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年度供給計画の計画停止量を参考に、年間計画停止可能量1.9カ月を確保するための追加設備量を算定</li> <li>2020～2022年度供給計画における計画停止量は1.9カ月で据え置きとし、継続して状況を注視することとしている</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>地内システムの混雑を考慮した供給信頼度評価の考え方の整理が必要ではないか。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価ツールPLEXOSにより、地内システム混雑影響を考慮した計算が一定程度できることは確認し、継続検討としている</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>予備率とEUEの関係性の整理が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2025年度供給計画取りまとめ時点においては、東京・九州エリアはEUEが基準を超過しているものの、予備率には余裕があると判断した</li> </ul>

## 1. 現状整理

## 2. 供給計画におけるEUE評価と予備率評価の関係について

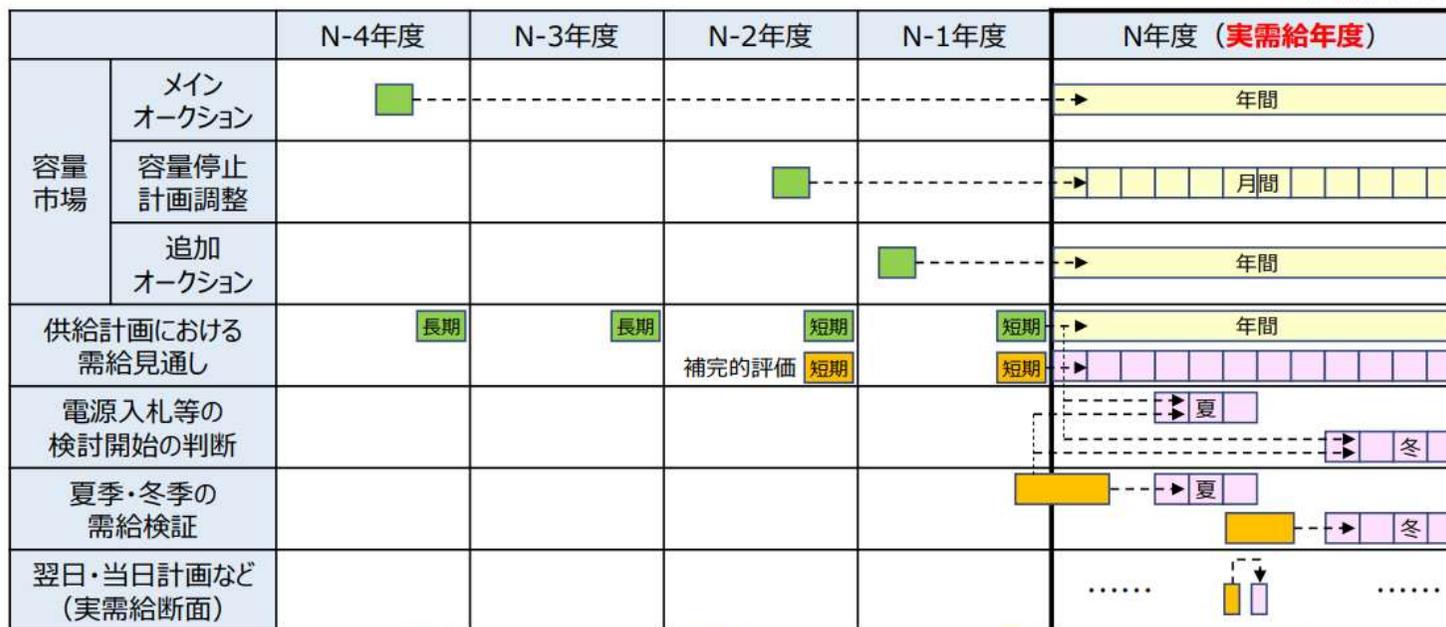
## 3. まとめ

各断面における供給信頼度評価手法について

5

- 中長期的な供給信頼度評価については、その検討タイミングに応じてさまざまな観点からの評価を行っている。
- 実需給年度の4年前から1年前にかけては、容量市場や供給計画において再エネや揚水などの供給力を適切に評価（調整係数により安定電源と等価に扱うことが可能）するため、実需給年度全体を通じたEUE評価を実施している（ただし、供給計画では補完的な予備率評価もあわせて実施）。
- 一方、供給計画提出後から実需給断面にかけては各時間帯（各コマ）に対する予備率評価が基本であり、夏季・冬季の需給検証等についても予備率評価を実施している※。

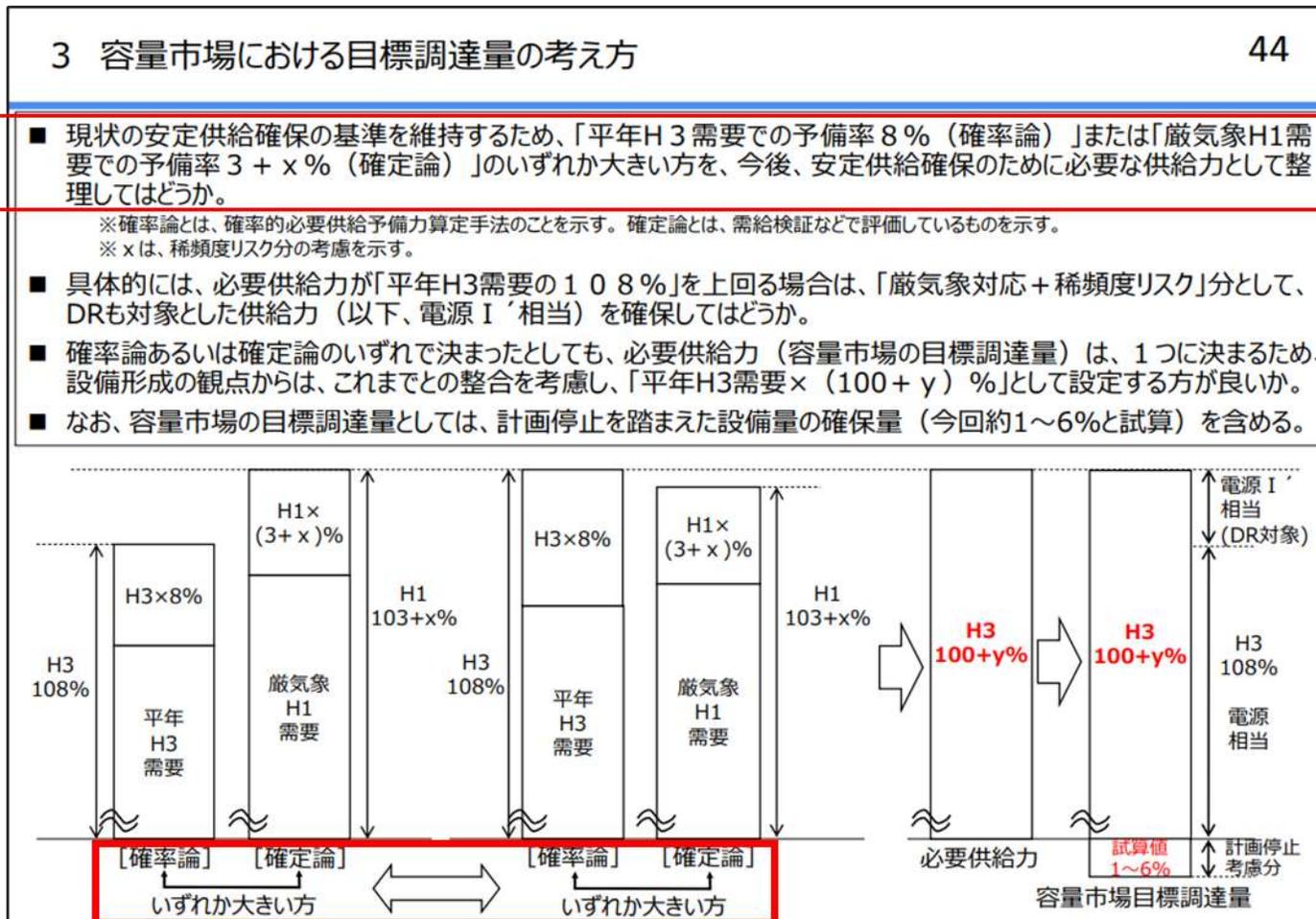
※ 10か年計画のうち第1年度



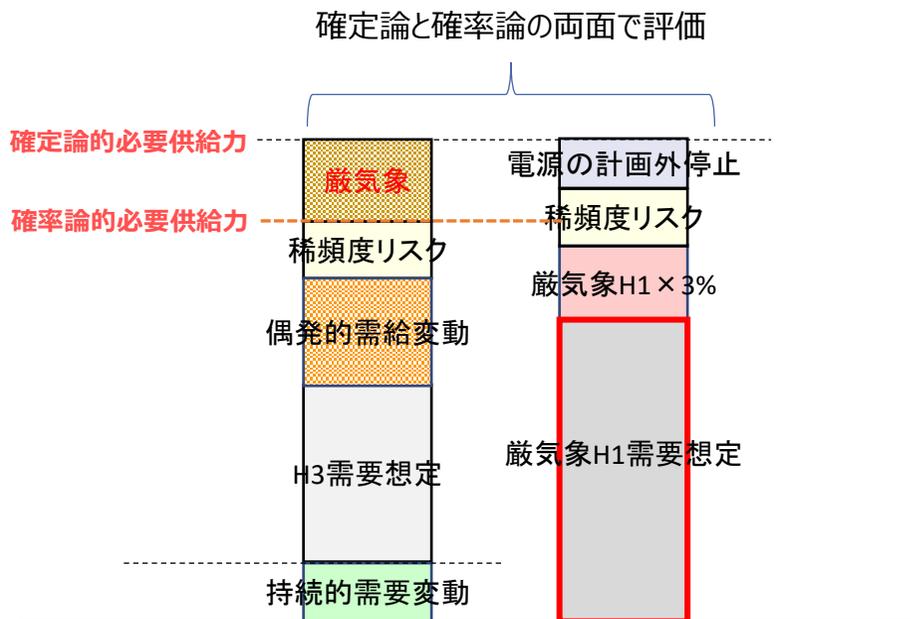
■ EUE評価 (確率論)    ■ 予備率評価 (確定論)    □ 年間または月間評価    □ コマごとの評価



- 安定供給確保のために必要な供給力は、**平年H3需要に対する必要供給力**(EUE評価に基づく確率論的な必要供給力)と**厳気象H1需要に対する必要供給力**(予備率評価に基づく確定論的な必要供給力)のうち、**いずれか大きい方**であると整理されている。



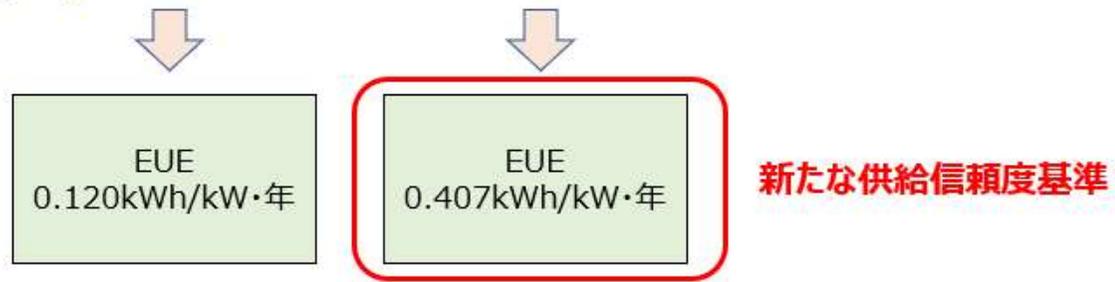
- 前述のとおり、安定供給のためには平年H3需要に対する必要供給力(確率論的必要供給力)と厳気象H1需要に対する必要供給力(確定論的必要供給力)のうちいずれか大きい方を確保することが肝要となる。
- 直近では確定論的必要供給力の方が大きい傾向にあるため、確率論的必要供給力と確定論的必要供給力の差を厳気象対応として確保している。



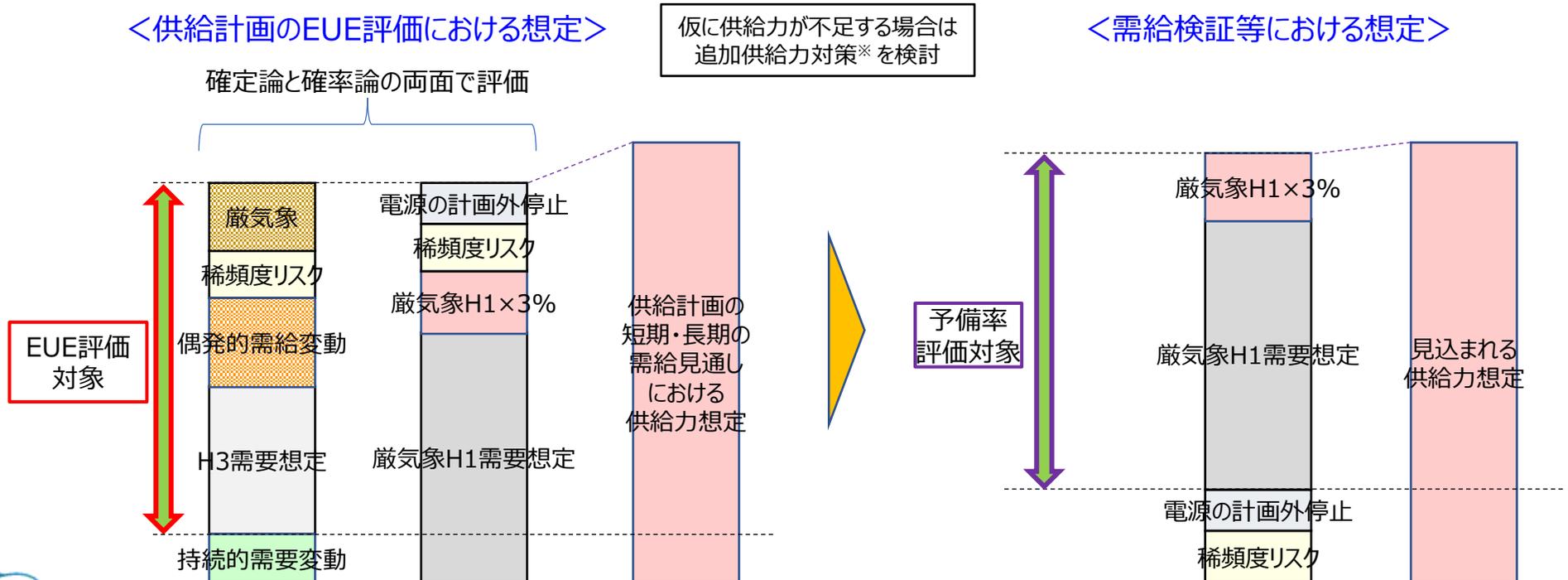
- EUE評価の導入当初には、予備力として偶発的需給変動対応7%のみを確保した条件におけるEUEを算定しており、これは0.120kWh/kW・年であった。このEUE=0.120kWh/kW・年がLOLP=0.3日/月と同水準の停電量であり、偶発的需給変動対応7%に相当する供給信頼度基準である。
- その後、第80回本委員会においてEUE算定向け計画外停止率の考え方を見直したところ、**偶発的需給変動7%に対応する供給信頼度基準はEUE=0.407kWh/kW・年となり、現在も同様の基準を用いている。**

EUE算定向け計画外停止率		前回調査結果 (2017~2019)	今回調査結果 (2019~2021)	備考
水力	火力	2.5%	4.3%	事業者データによる分析結果より
	揚水	1.6%	1.2%	
	自流・調整池式	5.0%	4.3%	
	貯水式	0.5%	2.1%	
	原子力	2.5%	4.3%	火力の計画外停止率を準用
再生エネ	太陽光	—	—	EUE算定時の出力比率に計画外停止等が考慮されているため、計画外停止は設定しない。
	風力	—	—	
	地熱・バイオマス	2.5%	4.3%	火力の計画外停止率を準用

【出典】第80回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会（2022.12.26）資料1



- 現在は、供給計画から需給検証まで一貫して厳気象H1需要に対する必要供給力を基準として供給信頼度を評価している。
- 評価指標としては供給計画の取りまとめにおいては容量市場でも用いられているEUEを基本とし、目標停電量に対し取りまとめた際の供給力を基に算定した年間EUEが下回っているかを確認している。一方で、年間EUEは各月の間で供給予備力があっても、その状況を把握することが難しいため、補完的にH3予備率評価を行っている。
- また、実需給近傍での最新状況を反映した結果、厳気象H1需要に対する必要供給力も変化する場合があるため、需給見通しや需給検証での厳気象H1需要に対する予備率評価も継続している。



※ 実際には均平化後における各ブロックの予備率が不足するエリアで対策を実施

出所) 第94回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 (2024年1月24日開催) 資料1 を一部修正

[https://www.occto.or.jp/assets/iinkai/chouseiryoku/2023/files/chousei\\_94\\_01.pdf](https://www.occto.or.jp/assets/iinkai/chouseiryoku/2023/files/chousei_94_01.pdf)

2025年度の厳気象H1需要時の需給見通し（最小予備率時）

8

■ 厳気象H1需要に対して、発動指令電源、火力増出力運転、エリア間融通を供給力として見込むと、**全エリアで予備率3%以上を確保できる見通し**となった。

(単位：%)

エリア	夏季			冬季			
	7月	8月	9月	12月	1月	2月	3月
北海道	9.5	<b>8.7</b>	12.8	18.0	<b>5.4</b>	6.5	11.4
東北	9.5	<b>8.7</b>	9.0	18.0	<b>5.4</b>	6.5	11.4
東京	9.5	<b>8.7</b>	9.0	18.0	<b>5.4</b>	6.5	11.4
中部	9.9	10.1	9.0	9.6	<b>5.4</b>	6.5	13.8
北陸	9.9	10.1	9.0	9.6	6.0	6.5	13.8
関西	9.9	10.1	9.0	9.6	6.0	6.5	13.8
中国	11.0	10.1	9.0	9.6	6.0	6.5	13.8
四国	30.6	21.4	9.0	9.6	7.8	19.3	33.0
九州	11.0	10.1	9.0	9.6	6.0	6.5	13.8
沖縄	13.4	20.7	28.9	50.2	50.3	53.6	73.9

※ 全国で最小予備率となる時間帯で評価

※ 発動指令電源の考慮等により、最小予備率時の予備率が最大需要時を上回ることがある

### <⑤EUEと予備率の関係> EUEと予備率の関係整理

21

- 2025年度の供給計画取りまとめ時点では一部のエリアのEUE評価が基準を超過しているものの、平年H3需要に対する予備率に余裕がある状況と判断していた。一方、EUE導入時には、平年H3需要に対する予備率と同水準のEUEを基準として設けている。
- そのため、EUEと予備率の関係について分析するとともに、供給信頼度評価における指標の再整理を検討する。

#### 【第107回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 議事録より抜粋】

次にEUEと予備率について、いつも当惑してしまうが、今回はEUE評価で一部のエリアで懸念があり、その一方で、予備率の観点から見るとそれなりに余裕があることについては、別の文脈でかつて出てきたものと全く逆のデータが出てきている。EUEレベルでは足りているが、予備率では懸念が出てくる局面もあり、今回のようにその逆の局面もある。何故こんなことが起きるのだろうか。もちろん全く違う指標であることは承知しており、違う傾向が出てくることは当然のことではあるが、どうしてこうなるのかその背後にある要因を分析して示していただけると、本当に危機的な状況においてEUEで示すことが実感に合っているのかその逆なのか判明すると捉えている。こうした乖離が出てくる場合には、計算の仕方が違うから違うのは当然だが、なぜそうなるのかその背後にある要因を分かる範囲で教えていただきたい。（松村委員）

#### 【第111回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 議事録より抜粋】

2026年度容量市場追加オークション結果において、東京エリアはEUE目標に対し、大きく未達であったが、容量市場検討会において、事務局からは、未達であっても直ちに供給力不足になるものではないとの見解が示された。そうすると、維持すべき供給信頼度の水準とは何か明確になっていないことを懸念している。供給信頼度基準は気象影響や発電機補修停止の実態などを考慮して定められてきたものであり、これを満たしていないということは相応のリスクがある状況が示されているものだと思っていたが、確率論による評価のため指標としてわかりにくいといった課題もあるかと思う。維持すべき供給信頼度の水準として、今後もEUEによる指標を継続するのか、予備率に換算したうえで予備率を指標とするのかなども含め、維持すべき供給信頼度の水準とは何かを改めてお示しいただきたい。（岸オブザーバー）



1. 現状整理

2. 供給計画におけるEUE評価と予備率評価の関係について

3. まとめ

- 2025年度供給計画(以下25供給計画)の第1年度(2025年度)を対象に予備率とEUEの比較を実施した。予備率が一定程度あると評価されたにもかかわらず年間EUEが目標停電量を超えた理由はEUE評価と予備率評価では評価対象となる供給力および供給信頼度基準が異なるためである。
- なお、評価対象を一致させたとしても、EUEと予備率では指標の特徴が異なるため評価結果は一致しない。

25供給計画における2025年度のEUEとH3需要予備率

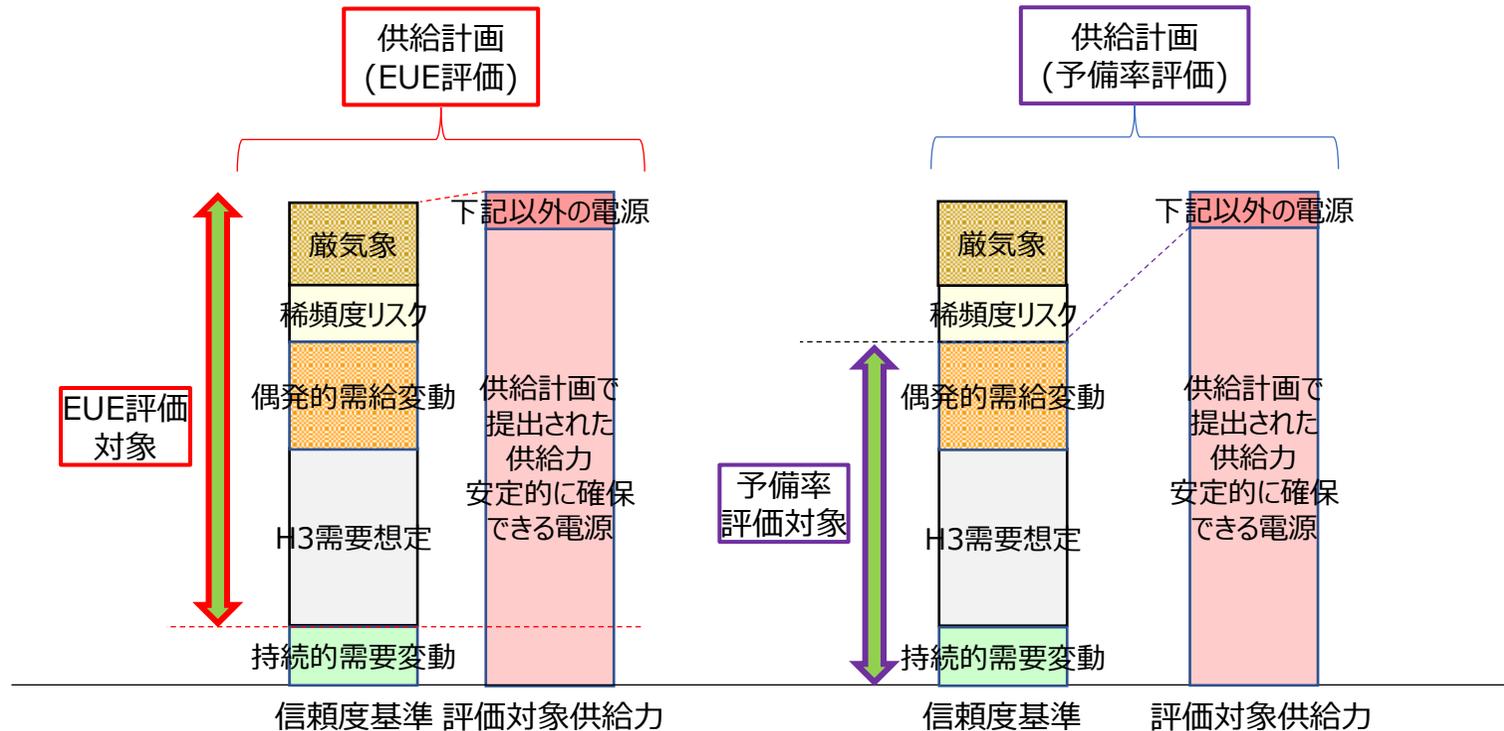
エリア	EUE [kWh/kW・年]	予備率												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
北海道	0.007	27.6%	36.6%	37.5%				23.5%	14.4%	19.8%	15.5%		21.6%	
東北	0.001	19.9%	19.9%	19.6%				12.7%						
東京	0.028							12.4%						
中部	0.017	27.5%	30.1%	24.6%	17.9%	17.5%	24.3%	29.6%	21.7%	17.0%	14.7%	14.8%	25.7%	
北陸	0.000				34.4%	46.3%	37.1%		28.0%					31.7%
関西	0.000			63.5%				66.1%						
中国	0.000				24.8%	35.3%	59.8%							
四国	0.000	27.5%	21.7%	34.4%	17.9%	17.5%	24.3%	29.6%	14.7%	14.8%	25.7%			
九州	0.021	偶発的需給変動+持続的需要変動												
目標	0.018	偶発的需給変動+持続的需要変動												

出所) 2025年度供給計画取りまとめを基に作成

[https://www.occto.or.jp/assets/kyoukei/torimatome/files/250328\\_kyoukei\\_hyogiiinkai.pdf](https://www.occto.or.jp/assets/kyoukei/torimatome/files/250328_kyoukei_hyogiiinkai.pdf)

- EUE評価では、供給計画で提出された供給力のうち持続的需要変動分を除く供給力に対し、厳気象対応分や稀頻度リスクを含む必要な供給力、実質的にはおおむね厳気象H1需要の3%に相当する供給力を確保できているかを評価している。
- 予備率評価では、供給計画で提出された供給力のうち、最大需要発生時に安定的に見込める供給力に対し、偶発的需給変動と持続的需要変動を含む需要(H3需要+8%※に相当)に対して必要な供給力を確保できているかを評価している。
- これまでは、両評価で評価対象の供給力、供給信頼度基準が異なるため、一概にEUE評価と予備率評価の比較はできるものではなかった。

※ 偶発的需給変動分7%、持続的需要変動分1%とした場合



- 供給計画の予備率評価に用いる供給力は、最大需要発生時に安定的に見込めるもののみが計上される。

参考：供給計画における供給力評価

7

- 供給計画の予備率評価に用いる供給力は、電力需給バランスに係る需要及び供給力計上ガイドライン等に基づき、最大需要発生時に安定的に見込めるものが計上され、純揚水等のブラックスタート機能として確保する容量や火力増出力等、厳気象・稀頻度リスクのみに対応するものは計上されない。

電力需給バランスに係る需要及び供給力計上ガイドライン

第3. 供給計画における需給バランスの算定方法

1. 基本事項

- ・最大電力需給バランスにおいては、**最大需要電力と最大需要電力発生時に安定的に見込める供給能力を記載**するとともに、供給能力から最大需要電力を差し引いた供給予備力を用いて算出する需給の均衡度合（供給予備率）を示す。

電力需給バランスに係る需要及び供給力計上ガイドライン（2024年11月）

[https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity\\_and\\_gas/electricity\\_measures/001/pdf/2024-11\\_jukyujuyou\\_keijogaidorain.pdf](https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/electricity_measures/001/pdf/2024-11_jukyujuyou_keijogaidorain.pdf)

2025年度供給計画届出書の記載要領

様式第32 第1表（年度別の最大電力供給計画表）

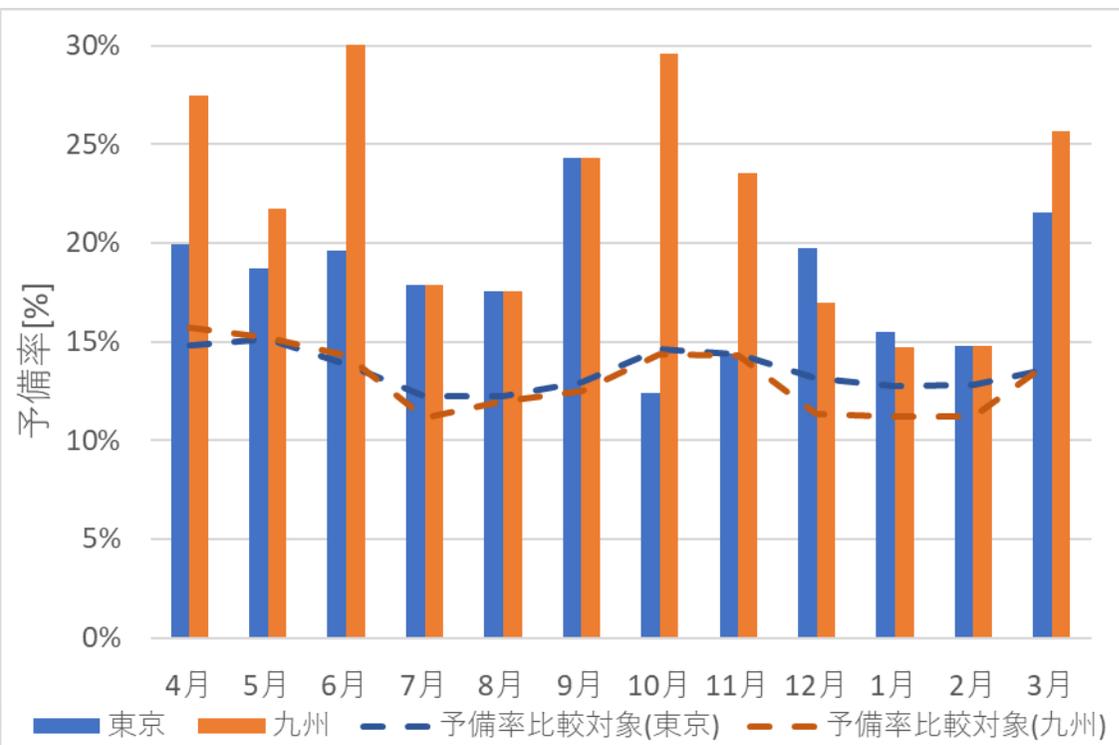
（記載要領）

- 供給電力からは、**一般送配電事業者と電源Ⅰ' 契約した当該契約分、ブラックスタート機能契約し、機能提供に必要な電力量の確保による減少分を除く。**
- 保有電源の欄には、自らが保有する発電等用電気工作物の発電能力から補修等による減少を除いた分を記載すること。この場合、**「発電能力」とは、当該年度において安定的に発電又は放電可能な出力とする。**
- 調達分の欄には、**安定的に供給電力として見込める調達分**について、事業者種別毎に分類して記載すること。なお、自ら調達した電気あるいは保有する発電等用電気工作物より他の事業者に対し電気の供給を行う場合は、受電分から送電分を差し引いた値を記載すること。

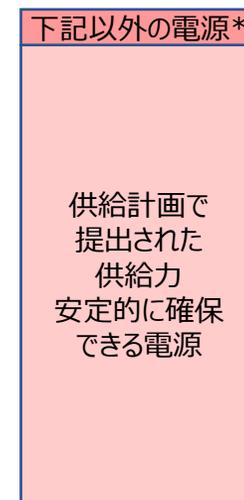
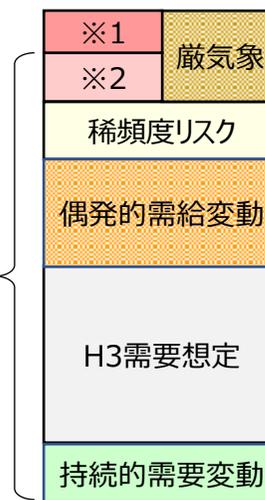
2025年度供給計画届出書の記載要領（2024年11月）

[https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity\\_and\\_gas/electricity\\_measures/001/pdf/2024-11\\_kyoukei\\_kisaiyouryou.pdf](https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/electricity_measures/001/pdf/2024-11_kyoukei_kisaiyouryou.pdf)

- 25供給計画取りまとめにおいて年間EUEが目標値を超過した東京・九州エリアを対象に、必要供給力から供給計画の予備率評価に含まれない供給力を除いた値(予備率比較対象)と供給計画取りまとめのH3需要予備率を比較した。
- 予備率比較対象はエリア・月によって異なるが、概ね11~16%程度となる。**東京エリアでは10月においてH3需要予備率が予備率比較対象を下回っているが、九州エリアではH3需要予備率が予備率比較対象を下回る月はない。**



H3予備率の比較対象



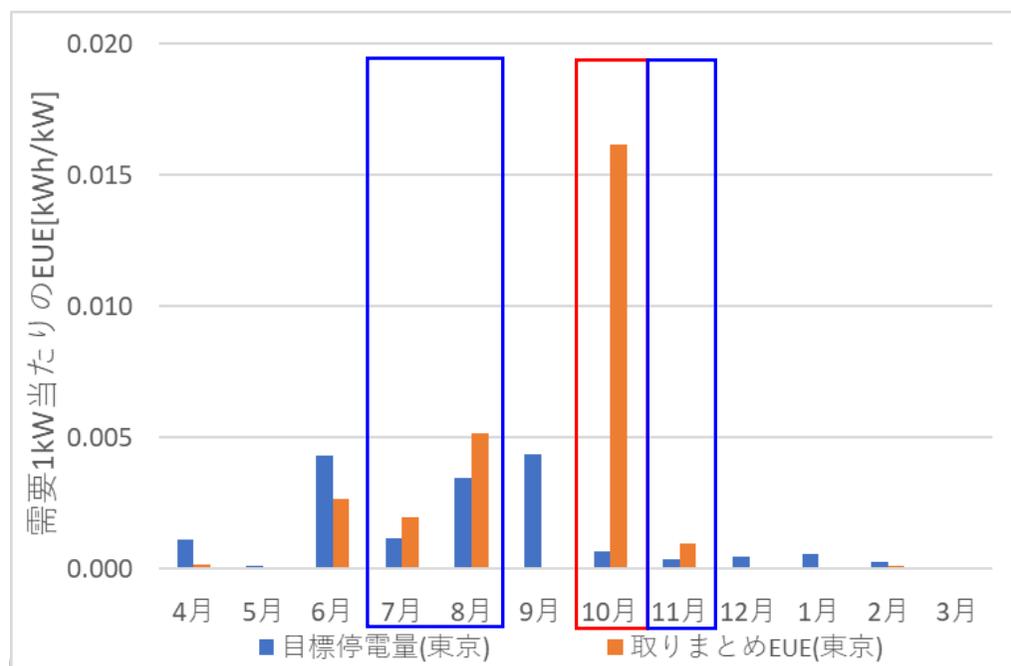
※1 厳気象対応分のうち、\*に相当する容量  
 ※2 厳気象対応分のうち、※1を除く容量

- 目標停電量・供給計画取りまとめの年間EUEを月別展開した値<sup>※1</sup>を比較すると以下のとおりとなる。目標における供給力に対し供給計画取りまとめにおける供給力が少ない月、具体的には月別では東京エリアで7、8、10、11月、九州エリアで5、7、8、1、2月は供給計画取りまとめのEUEが目標停電量を超過している。特に7、8、11月は前頁の比較とは異なる結果となっており、評価対象を一致<sup>※2</sup>させたとしても**EUE評価と予備率評価では評価結果が一致しない。**
- これは、東京・九州エリアともに、**EUE評価と予備率評価で評価断面が異なることによる連系線の混雑影響の違い、供給力の未達による指数関数的なEUEの上昇等が原因となる。**

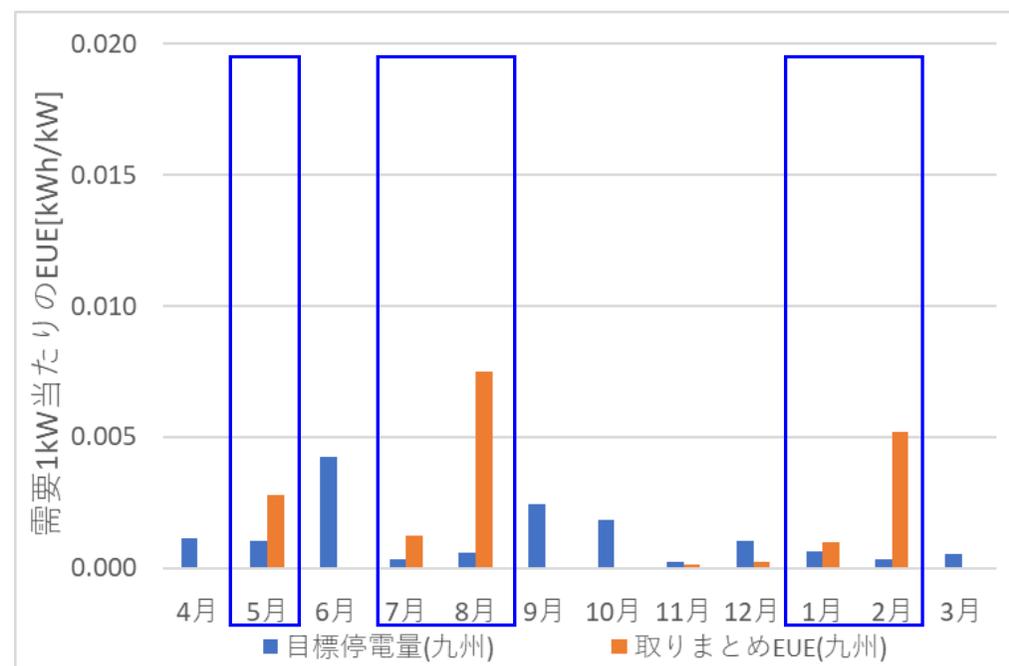
※1 供給計画では目標停電量・取りまとめで年間EUEを指標としているが、月別傾向確認のため参考値として月別に展開している

※2 EUE評価では需要・供給それぞれから持続的需要変動を控除しているため、15pの評価対象と一致する

目標停電量算定と取りまとめ時の月別EUE(東京エリア)



目標停電量算定と取りまとめ時の月別EUE(九州エリア)



- 8月・2月はH3需要の予備率評価上では四国を除く8エリアが同一ブロックを形成しているため、H3需要発生時には四国エリア以外では連系線混雑が発生していない。一方、EUE算定は全時間帯を対象としているため、混雑※が発生している連系線も存在する。
- 特に、EUEが目標を超過している東京・九州エリアでは、**流れ込むすべての連系線**(東京エリアは8月、九州エリアは8月、2月)で**混雑が発生**している。これにより**他エリアからの融通が受けられず、EUE評価が悪化しているものと推察**される。

※ EUE評価の混雑は停電解消のために必要な場合のみエリア間で融通を行う計算となっており、現実の混雑とは概念が異なる

25供給計画取りまとめにおける  
連系線混雑時間※<sup>1</sup>(8月)[h]

連系線	順方向	逆方向
北海道-東北	0.8	0.0
東北-東京	<b>0.3</b>	0.0
東京-中部	0.2	<b>3.1</b>
中部-北陸	1.2	0.0
中部-関西	1.2	0.0
北陸-関西	0.0	0.0
関西-中国	0.0	0.0
関西-四国※ <sup>2</sup>	-	0.0
中国-四国	0.0	0.0
中国-九州	<b>0.4</b>	0.0

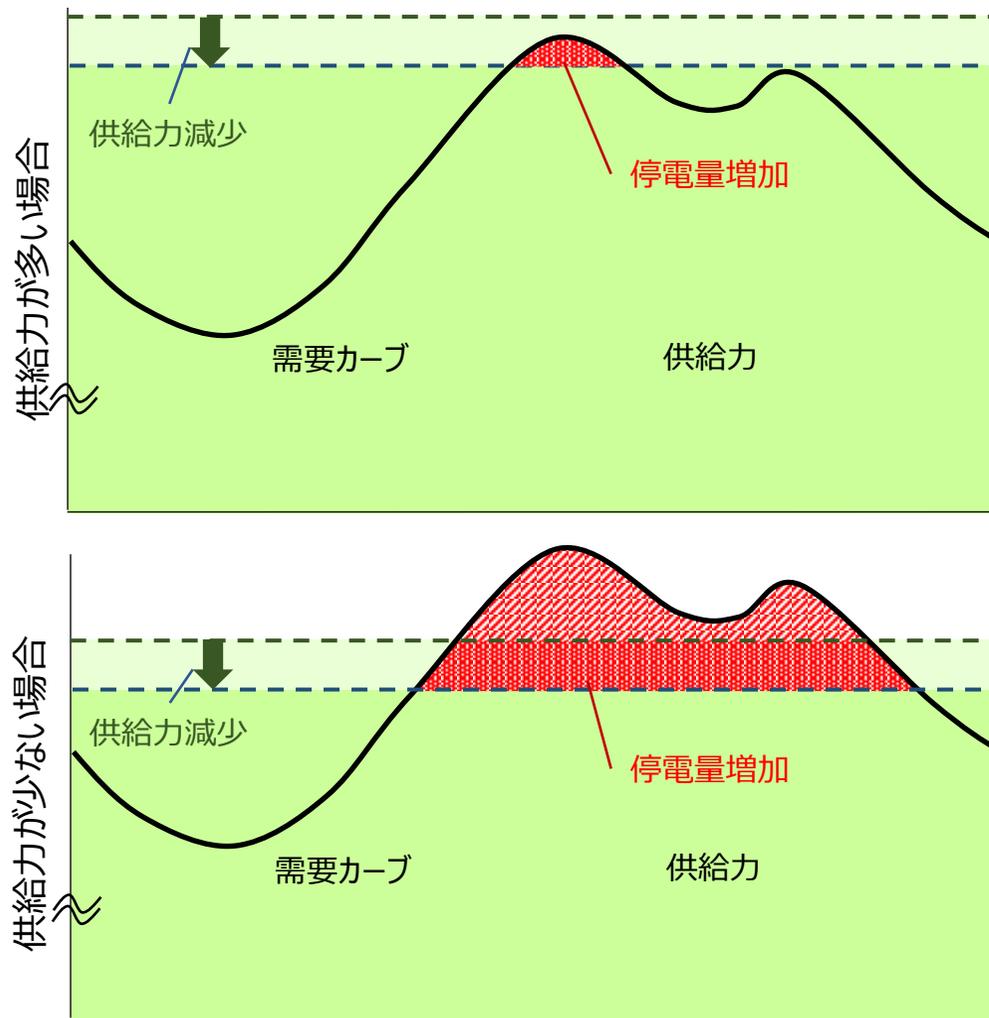
25供給計画取りまとめにおける  
連系線混雑時間※<sup>1</sup>(2月)[h]

連系線	順方向	逆方向
北海道-東北	0.1	0.0
東北-東京	0.0	0.0
東京-中部	0.0	0.6
中部-北陸	0.0	0.0
中部-関西	0.0	0.0
北陸-関西	0.0	0.0
関西-中国	0.0	0.0
関西-四国※ <sup>2</sup>	-	0.0
中国-四国	0.0	0.0
中国-九州	<b>0.3</b>	0.0

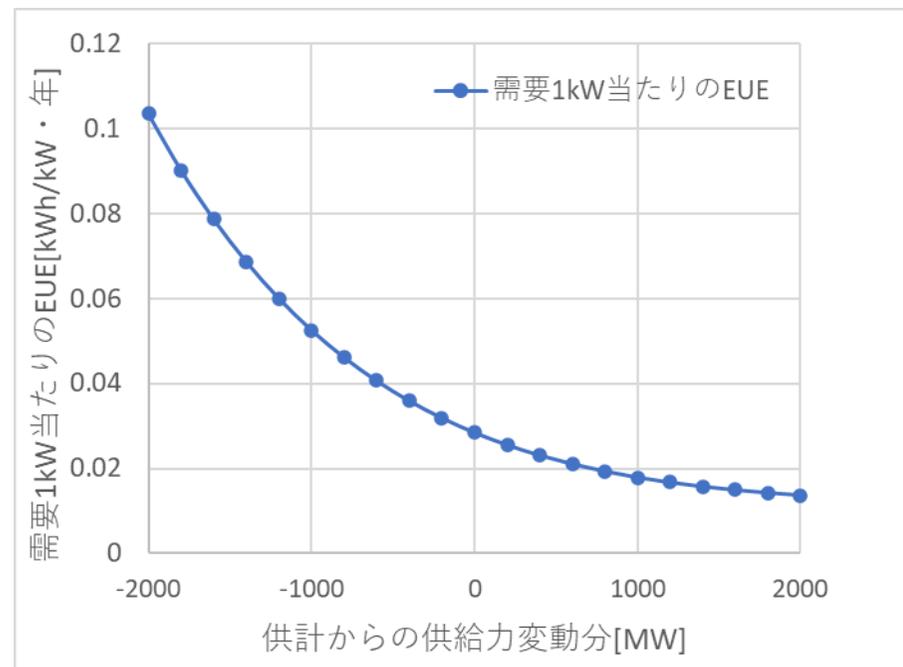
※<sup>1</sup> EUE評価におけるモンテカルロシミュレーション(1万回試行)の平均値

※<sup>2</sup> 関西-四国間連系線順方向は運用容量が0のため除外

- EUEは供給力が少なくなるほど単位当たりの供給力の変化に対して大きく増加する。そのため、供給力を減少させると指数関数的にEUEの値が増加する。

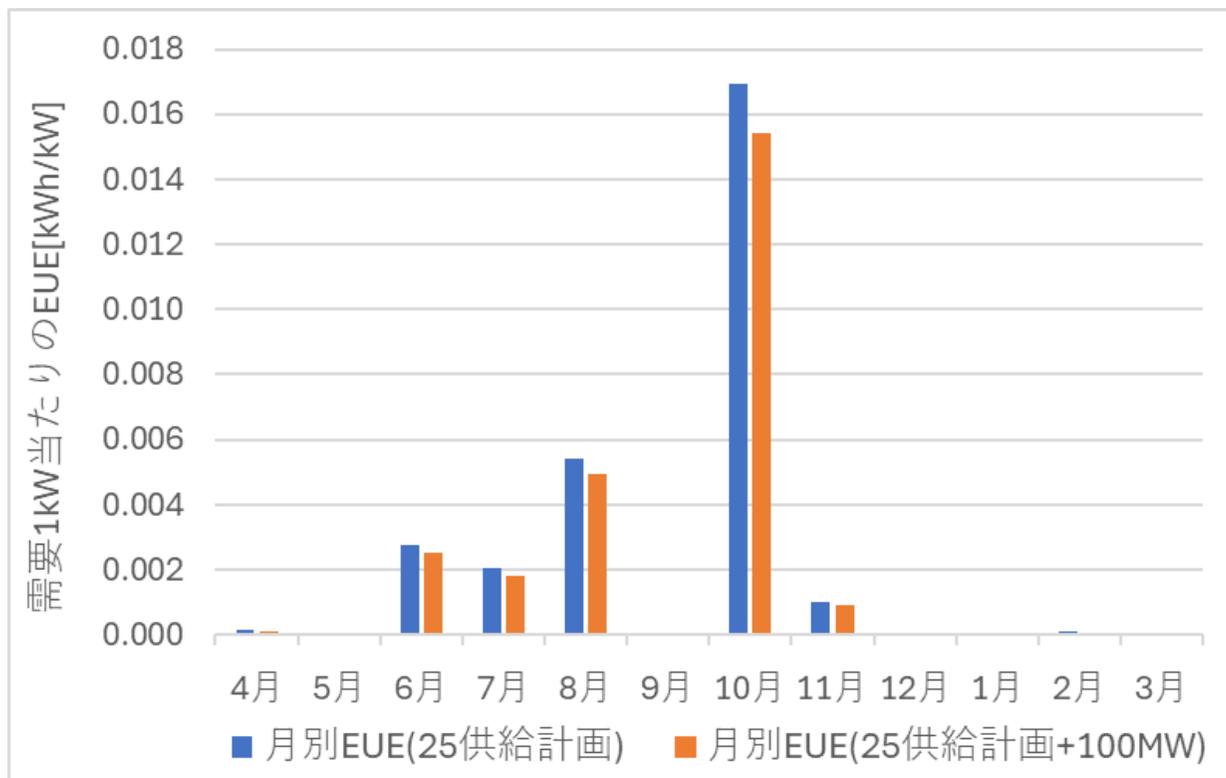


(東京エリア)25供給計画取りまとめから供給力を増減した場合のEUEの変動



- 25供給計画取りまとめ時の供給力におけるEUEと、東京エリアで月毎に供給力を100MW増加させた場合のEUEの比較(供給力のEUE感度)は以下のとおり。EUEが大きいほどEUE感度が大きくなる傾向となる。

<東京エリア> 25供給計画取りまとめ時の月別EUEと供給力を+100MWした場合の比較(需給対象：2025年度)



## 1. 現状整理

## 2. 供給計画におけるEUE評価と予備率評価の関係について

## 3. まとめ

- 供給信頼度評価においてEUE評価と予備率評価で発生する差異について、2025年度供給計画を基に分析を行った。その結果、以下のことが判明した。
  - 供給計画におけるEUE評価と予備率評価では評価対象となる供給力および供給信頼度基準が異なるため、一概に比較できない
  - また、評価対象を一致させたとしても、EUEと予備率では指標の特徴が異なるため評価結果は一致しない
- その上で、現状の供給信頼度評価は、以下の役割に基づいて実施されているものであり、電源入札など追加の供給力確保策を講じるかの判断基準として、厳気象H1需要に対して異なる2つの評価手法を用いていること自体は妥当と言えるか。
  - EUE評価：厳気象H1需要に対する必要供給力を基準として8760時間における供給信頼度評価
  - 供給計画の予備率評価：H3需要に対する必要供給力(偶発的需給変動分+持続的需要変動分)を基準としてH3需要断面(最大需要時)における供給信頼度評価
  - 需給見通し予備率評価：厳気象H1需要に対する必要供給力を基準として厳気象H1需要断面(最大需要時・最小予備率時)における供給信頼度評価
- 一方で、直感的に分かりにくいといった課題に対して評価方法のどのように見直すかについては、容量市場や供給計画などにおいて供給信頼度評価を行っている目的を踏まえる必要があることや、国の供給力確保に向けた方策の議論状況を踏まえつつ、引き続き検討していく。

【追加検討事項】 供給力確保に向けた方策

## 【追加検討事項】 供給力確保に向けた方策（1/3）

### 【背景】

- 2026年夏季の電力需給見通し（速報値）は、同年8月の東京エリアの予備率は0.9%（今年度比▲6.3%）と非常に厳しい。今後、電力需要の増加が見込まれる一方、非効率な石炭火力を中心として電源の休廃止に向けた検討が進み、長期脱炭素電源オークションを活用したLNG火力等のリブレースに先立つ一時的な供給力の減少も見込まれる。
- こうした状況を踏まえ、**これから当分の間、我が国は、電源移行の過渡期を迎え、今後、2030年代初頭にかけて、特に夏冬の高需要期における電力需要は予断を許さない厳しい状況が続く可能性**がある。
- 引き続き安定供給に必要な水準の供給力を確保できるよう、容量市場や予備電源制度等の既存の仕組みの見直し、短期の追加供給力調達の在り方を含め、**必要な供給力確保に向けた新たな方策の検討が必要**。
- **本年10月31日の第3回小委において、上記の課題が示されたため、本WGにおいて、当初の検討事項に加えて供給力確保に向けた新たな方策についてご議論いただいた。**

### 【対応の方向性】

- 上記を踏まえ、これまでの供給力確保策を振り返り、次の3点について、関係審議会や電力広域的運営推進機関の関係委員会において、実態を踏まえた具体的な制度改善等を検討する。
- **①電源や系統整備のリードタイムを勘案し、中長期的な視点から、必要な設備投資を後押しするための仕組みの在り方**
- **②容量市場の見直し等による稼働可能な電源の最大限の確保と、容量市場不落札電源の維持・確保に向けた仕組みの在り方**
- **③施工力制約等により柔軟な補修時期の調整が困難になる中での計画的な追加供給力確保の在り方**

- 各課題の検討状況は以下の通り。引き続き残る課題④⑤について検討を進める。

検討事項		見直し結果
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>EUEによる需給バランス評価について、<b>月を前半・後半等に細分化することで、より合理的な評価を行うことができるのではないか。</b></li> </ul>	<p>&lt;第115回審議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ツール改修までは、春季・秋季厳気象対応分について、6月に適用した簡易的手法を春季・秋季各月に適用し、24断面を考慮した12断面評価を行う。</li> <li>ツール改修後は、全12か月を前後半に細分化した、24断面で需給バランス評価を行う。</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>至近3カ年平均の実績から算定し、3年周期で見直すこととしている<b>EUE算定向け計画外停止率について、2022年度～2024年度の実績による見直しが必要。</b></li> </ul>	<p>&lt;第115回審議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度～2024年度の実績から算定したEUE算定向け計画外停止率を適用</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>今般の需給ひっ迫等で補修停止計画の調整が発生している状況ならびに2025年度供給計画の取りまとめに関する経済産業大臣への意見の内容を踏まえ、<b>年間計画停止可能量及び追加設備量の考え方を改めて整理する必要があるのではないか。</b></li> </ul>	<p>&lt;第115回審議事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画停止可能量2.4ヵ月を確保するための追加設備量を算定する</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>地内システムの混雑を考慮した供給信頼度評価の考え方の整理が必要ではないか。</b></li> </ul>	<検討中>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>予備率とEUEの関係性の整理が必要ではないか。</li> </ul>	<p>&lt;継続検討&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>供給信頼度の指標および基準の在り方について継続検討</li> </ul>